

私は鹿児島生まれの鹿児島育ち。大学院までの二十四年間を鹿児島で過ごした。その後、大阪の製薬会社に研究開発職として入社し、約十年間働いた。

大阪へ行ったころ、よく話題になったのが出身地のことだった。「出身はどこ？」と聞かれれば、「鹿児島」と答えるのは当然。しかし、そのとき返ってくる言葉はたいいてい「九州なの」というものだ

思いつくと

った。

初めてのころは「九州じゃない、鹿児島です」とムキになって答えていたのだが、同じようなことが何度も繰り返されるので、ある時から面倒

でその返答を聞いたとき、残念で、違和感があったのを今でもよく覚えている。大阪に行くまでは、鹿児島は田舎でなにもないし、遊ぶところもない。都会の方がず

鹿児島

になって、「出身はどこ？」と聞かれたら「九州です」と答えるようになった。

と魅力的だと思っていた。二年前、縁あって故郷鹿児島に帰ってきた。以前はイヤで

九州を一步出ると、鹿児島は九州の一つで、福岡も長崎も熊本もみんな「九州」という名でひとくくりに。初め

たまらなかった鹿児島だが、あらためて見てみると、新しい発見がたくさんあった。野菜や果物、肉は安い上に

中山 好子 (野菜ソムリエ)

とてもおいしい。温泉だってたくさんある。目の前には活火山である桜島と鹿児島湾。そこに住む特有の生き物たち。鹿児島が面白くてたまらなくなつた。

約一年前、鹿児島で健康や食にかかわる仕事を始めた。この面白い鹿児島を生かしたいと思ったからだ。県外の起業家の先輩からは「まるで鹿児島の親善大使だね」と笑われたのだが、私は本当に鹿児島の親善大使になりたいと、学びの毎日を送っている。